



上手な野菜の育て方

ピーマン

1 栽培時期と品種

○ 種まき △ 植え付け
■ 収穫

栽培方法	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	品種
苗購入					△	■	■	■	■	■	■	■	京みどり
自家育苗		○			△	■	■	■	■	■	■	■	京波



2 栽培上の注意点

連作すると土で伝染する病気(青枯病等)が出やすいので、4~5年間輪作する。ナス科なのでピーマンだけでなく、トマト、ナス、ジャガイモなどナス科作物との連作も4~5年間避ける。

浅く根が張り細根が多い為、土を深く耕し、水排けを良くし牛フン堆肥を利用して根を深く張らせる。

3 畝づくり

80~120cmくらいにし、高畝にする。

4 本田肥料

畝づくりの時に、基肥として1坪3.3㎡当たり、苦土セルカ500gを全面に施し、畝の中央部に牛フン堆肥7kg、野菜化成500gを施す。

追肥は定植後1ヶ月目に1回目、その後半月ごとに野菜化成70gずつ株間や畝の肩面に施用する。

5 定植

5月上・中旬、地温が12℃以上くらいになった頃が植え付け適期である。植え方は株間40~45cmの1条植えにする。深植にならないように株元を少し盛り高にして、十分灌水しておく。

6 整枝と枝の誘引

最初に着果した果実の直下から分枝する側枝を2本残し、3本の主枝とする。その下の側枝は早目に全部摘みとる。

誘引は、植え付け後長さ80cmくらいの支柱で株元から15cm程離して分枝の下で結びつける。

7 灌水と敷きわら、マルチ

土壌水分の急激な変化に弱い。青枯病や尻腐れ病等の発生を少なくするためには、梅雨期の排水、夏場の灌水を定期的にする。

敷きわらは梅雨明けまでは、土のはね上がり防止程度に薄くし、その後は土が見えなくなるよう十分厚くする。また、マルチを使用すると、土壌水分の急激な変化がなくなり、除草にも効果がある。

Point

シルバーマルチを使用すると、太陽の光を反射するので、害虫の忌避効果がある。

また、マルチの代わりにピーマンの株元に牛フン堆肥を置き、マルチの代わりにする事で、雑草が生えても除草しやすく肥料切れの心配も軽減できる。

8 防除・使用農薬

うどんこ病

殺菌剤/ダコニール1000 1000倍
総使用回数3回 収穫前日まで使用可能

アブラムシ

殺虫剤/トレボン乳剤 1000倍
総使用回数3回 収穫前日まで使用可能